

# 帝国書院の新しい教科書の情報が詰まった 中学校 社会科Webのご案内

中学校 社会科  
Webも  
ご覧ください



令和3年度版  
内容解説資料

本資料は、  
一般社団法人教科書協会  
「教科書発行者行動規範」に  
則っております。

中学校 社会科Webは  
こちら



※左の二次元コードのほか、弊社ホームページならびに  
下記URLからもご覧いただけます。

帝国書院

検索

<https://www.teikokushoin.co.jp/jhs2020/index.html>

帝国書院 中学校 社会科Web

令和3年度版 中学校社会科  
教科書のご案内

サポート体制のご案内

中学校社会科地図  
特色を見る

中学生の地理  
特色を見る

中学生の歴史  
特色を見る

中学生の公民  
特色を見る

デジタル教科書・教材のご案内

## 令和3年度版 教科書のご案内 おもな内容

- 内容解説資料 (PDF/電子ブック)
- 編修趣意書 (PDF)
- 検討の観点から見た内容の特色 (PDF/Excel)
- 5大特色の紹介
- 二次元コードの内容紹介

など

## デジタル教科書・ 教材のご案内 おもな内容

- Web体験版
- 特色紹介 (動画)
- デジタル教科書・  
教材パンフレット (PDF)
- ラインナップ紹介
- 動作環境

など

## サポート体制のご案内 おもな内容

- 教師用指導書のご案内 (PDF)
- 年間指導計画作成資料 (Excel)
- 新学習指導要領関連資料
- 学習評価に関する資料
- 特別支援教育対応地図帳

など

※上記内容は掲載される時期が異なる場合があります。また、一部内容が変わる場合があります。  
※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

## 令和3年度版 内容解説資料

部分サンプル

本資料は、環境にやさしい再生紙・植物油インキを使用しています。  
また、カラーバリアフリーを含む、ユニバーサルデザインに配慮しています。  
本書の無断転載・複製を禁じます。

帝国書院

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-29  
TEL 03-3262-0831  
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>

社会科

# 中学生の 地理

世界の姿と日本の国土



地域の特色を捉え、  
「持続可能な発展」を  
考えられる教科書

帝国書院



■p.27 インドネシアの市場（フロレス島，2018年9月撮影）



■p.205 観光客でにぎわう清水寺の山門（京都府，京都市，2016年5月撮影）

## 世界の地域理解から “異文化理解”が深まる

■p.27 アラビア半島のらくだ市（アラブ首長国連邦 西部，2018年9月撮影）



## 日本の地域理解から “国土理解”が深まる

■p.239 首都圏外郭放水路（埼玉県，春日部市，2015年撮影）



# 本資料のもくじ



■p.33 床に座って食事をする人々(オマーン北部, 2018年9月撮影)

## 「社会科 中学生の地理」に込めた想い

異文化理解・国土理解から“深い学び”につながる教科書めざして

帝国書院 編集部

私たちの暮らす地球には、自然条件や社会条件の異なるさまざまな地域があり、それぞれの地域に独自の文化が広がっています。地理的分野の学習では、まず、日本や世界中に広がるさまざまな文化にふれてほしいと私たちは考えました。

その上で、暑い地域や寒い地域、先進国や発展途上国など、世界中のさまざまな地域で暮らす人々が、それぞれに工夫や努力を重ね、いきいきと暮らしているようすを感得してもらいたいと思っています。さらに、それぞれの地域を、自然環境や文化、産業などさまざまな面から多面的にみることで、地域の特色を理解してもらいたいとも思っています。

こうした地理的分野の学習を通して、中学生の皆さんが異文化理解・国土理解を深め、グローバル化する国際社会の中で生き、各地に見られる諸課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる人材に育ててほしいと願っています。

### 特色 ① 地域の姿が見える写真とイラスト地図 5

地域を概観できる導入写真	5
人々の営みを映し出す数々の写真	9
親しみやすいイラスト地図	11

### 特色 ② 地域の特色を着実に理解できる地誌の展開 13

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」編	13
着実に深まる国土理解「日本の諸地域」編	19
世界と日本の諸地域学習の「序説」	27

### 特色 ③ 深い学びにつながる「問い」 29

見通し・振り返り学習がしやすい構造 ①節(章)の構造	29
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ②見開きの構造	31
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ③「学習を振り返ろう」	33

### 特色 ④ 「地理的な見方・考え方」を育む資料 35

見方・考え方が働く図版や本文	35
充実した地理的技術の作業	39

### 特色 ⑤ SDGsの実現に向けたさまざまな資料 41

具体的な地域事例を多数掲載	41
防災・環境・共生への意識が高まる工夫	43

#### 共通の特色/サポート/特色一覧

社会科3分野 共通の特色	①3分野の関連を図った10のポイント	45
	②二次元コード コンテンツ	47
	③特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮	49
教科書指導の サポート	①デジタル教科書・教材	51
	②教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など	53
『社会科 中学生の 地理』の特色一覧	①教育基本法との対応	55
	②検討の観点から見た内容の特色	57
『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)		61
著作者を代表して/本書の著作関係者		62

※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

特色 1 地域の姿が見える写真とイラスト地図  
地域を概観できる導入写真 「世界の諸地域」編

p.108-109



写真で眺める  
南アメリカ州

カーニバルって、ヨーロッパの学習でも出てきたよね。どんな祭りだっけ？

1 リオデジャネイロのカーニバル(ブラジル, 2018年2月撮影)  
p.112



2 インティ・ライミ(太陽神の祭り)で民族衣装を着た子どもたち(ペルー, クスコ, 2017年6月撮影) インカ帝国時代に起源をもつ祭りです。パレードなどが行われます。  
p.112

探してみよう!  
写真1~7の位置を、地図上で確認しよう。



3 世界最大規模のスタジアムでサッカー観戦を楽しむ人々(ブラジル, リオデジャネイロ) このスタジアムは、ワールドカップやオリンピックの会場にもなりました。  
p.115

原寸大

第2部第2章「世界の諸地域」と第3部第3章「日本の諸地域」では、地域の姿を実感できるように、導入写真ページを掲載しています。これから学習する地域の特色を視覚的に概観できます。



4 ギアナ高地のアンヘル滝(ベネズエラ, 10月撮影) ギアナ高地には、山頂がテーブル状に平らな山がたくさんあります。アンヘル滝は、世界最大の979mの落差があることで知られています。  
p.110



5 バナナの選別工場(エクアドル) 多国籍企業がプランテーションでバナナを大規模に栽培し、世界に輸出しています。  
p.114

バナナの段ボールにあるマーク、店で見たことがあるよ!



6 休日に草原でバーベキューを楽しむ人々(アルゼンチン, ブエノスアイレス近郊, 2016年6月撮影) アルゼンチンの人々は、肉の消費量が多いことで知られています。  
p.111, 114

7 大規模な大豆畑での収穫作業(ブラジル, マットグロソ州, 3月撮影) かつては未開の地だった地域が、大規模な農地に開発されています。  
p.114



2章 世界の諸地域 南アメリカ州

特色 1 地域の姿が見える写真とイラスト地図  
 地域を概観できる導入写真 「日本の諸地域」編

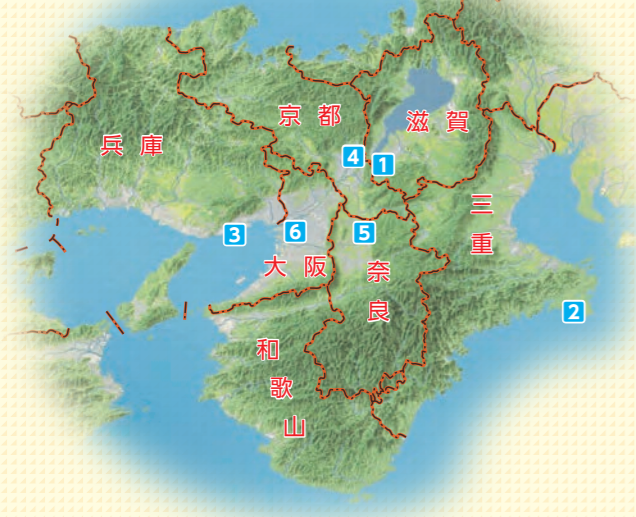
p.204-205

写真で眺める  
 近畿地方



琵琶湖の水は、  
 どんなことに  
 利用されている  
 のかな？

1 面積が日本一の湖、琵琶湖(滋賀県) 琵琶湖の水は、瀬田川、宇治川、淀川と流れ、大阪湾へと注ぎます。 p.206, 208



2 真珠の養殖(三重県、志摩市) リアス海岸が続く志摩半島では、真珠やのりの養殖が盛んです。 p.206, 215



3 神戸港と埋立地につくられた観光施設(兵庫県、神戸市、2017年撮影) 明治時代以降、神戸は外国文化の玄関口として栄えてきました。 p.206, 208

**ポイント**

- 1 新鮮な驚きを生み出す写真
- 2 特色ある自然や産業などを捉えた写真
- 3 有名な観光地の写真

写真は右に示した観点で選定しています。

地域の姿が見えてきます。

原寸大

4 観光客でにぎわう清水寺の山門(京都市、2016年5月撮影) 日本人・外国人を問わず、日本の伝統文化の一つである着物を着て、観光名所をめぐる観光客が増えています。 p.212

旅行で京都に行ったら、行きたい場所はどこかな？



5 鹿と出会う奈良の町(奈良県、奈良市、2018年撮影) 写真は大仏で有名な東大寺の参道です。東大寺は、この地に平城京がおかれた奈良時代に建てられました。 p.206, 212

探してみよう!  
 写真1~6の位置を、地図上で確認しよう。

6 大阪名物の食べ物を売る店が立ち並ぶ通天閣周辺の繁華街(大阪府、大阪市) 商業が発展している大阪は、「食いだおれ」の町としても知られています。 p.206, 209



3章 日本の諸地域 近畿地方

特色 1 地域の姿が見える写真とイラスト地図  
人々の営みを映し出す数々の写真



どうしてこんなに広い駐車場が必要なのかな？

1 駐車場に囲まれた大リーグのスタジアム(野球場)(アメリカ合衆国, ロサンゼルス)

p.104

例えば、上のスタジアムの写真からは“野球場のまわりにこんなに大きな駐車場が建設されるアメリカ合衆国とは、どのような国(=場所)なんだろう”という見方・考え方を働かせることにつながります。



雨季(7月) 雨季と乾季のトンレサップ湖の様子(カンボジア, 左, 2015年撮影, 右, 2016年撮影)  
資料活用 同じ場所を写した2枚の写真を見比べて、雨季と乾季で異なる姿を挙げよう。

p.51

同じ地点の違う時期の写真を掲載し、興味・関心を喚起させるようにしています。さらに、地理的な見方も自然に働きます。

積極的に現地取材を行い、地域の特色を的確に捉えた写真を用意しています。厳選された写真資料は、生徒の興味・関心を喚起し、地理的な「見方・考え方」を働かせることができます。(この見開きの写真は、すべて原寸となっています。)



帝国書院撮影 p.177 観察デッキから縄文杉を眺める観光客(鹿児島県, 屋久島町, 2018年8月撮影)



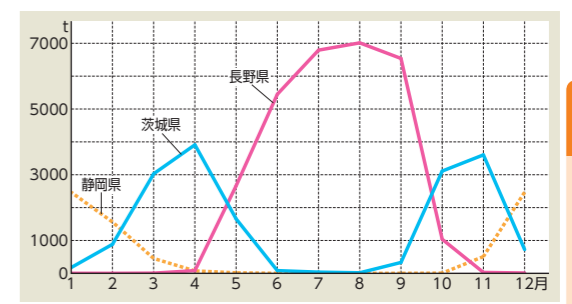
帝国書院撮影 p.265 南部鉄器の製造風景(岩手県, 盛岡市)

特色 1

例えば、下の写真からは“なぜ、こんなに朝早くから収穫しているのだろう”という疑問を喚起させ、この地域と都市部の関係(空間的相互依存作用)を働かせることができます。



帝国書院撮影 4 レタスの収穫の様子(長野県, 川上村, 2018年8月撮影) 収穫は午前2時ごろから午前8時ごろまで行われます。資料活用 夜明け前から収穫する理由を考えよう。



5 東京へ出荷されるレタスの量(2016年)(東京都中央卸売市場資料) 資料活用 長野県でレタス栽培が盛んな時期に注目しよう。

p.229

3章 日本の諸地域 中部地方

「見方・考え方」の詳しい説明は本資料p.35-38に掲載

特色 1 地域の姿が見える写真とイラスト地図 親しみやすいイラスト地図

原寸大

p.203

近畿地方

小学校の学習を振り返る「問い」を糸口に中学校の学習に結び付けています。

探してみよう!  
イラストの中には、小学校で学習したものも含まれています。あなたが知っているイラストを見つけよう。



日本の各地方の冒頭に、地方を概観できるイラスト地図を掲載しています。

p.171

九州地方

都道府県を代表する観光地や祭り、食べ物などのイラストを掲載しています。

原寸大



探してみよう!  
イラストの中には、小学校で学習したものも含まれています。あなたが知っているイラストを見つけよう。

# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開 着実に深まる異文化理解

「世界の諸地域」編

**【導入】写真で眺める南アメリカ州** **原寸大** 本資料 p.5-6

▶各州の特色となる自然環境、歴史・文化、産業などに関する、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、**地域的特色を概観**できるようにしています。

**南アメリカ州の自然環境(各州の自然環境)**

▶異文化理解を深める上で基礎・基本となる各州の地形や気候などの**自然環境を、人々の生活と関連付けながら、端的に捉えています。**

【例】第2部第2章第5節「南アメリカ州」(p.108～119)

**写真で眺める南アメリカ州**

リオデジャネイロカーニバル(ブラジル 2018年2月撮影) p.112

インティ・ラミ(太陽神の祭り)で民族衣装を着た子どもたち(ペルー、クスコ、2016年6月撮影)。インカ時代に起源をもつパレードなどが行われます。 p.111

世界最大規模のスタジアムでサッカー観戦を楽しむ人々(ブラジル、リオデジャネイロ) このスタジアムは、ワールドカップやオリンピックの会場にもなりました。 p.115

ギアナ高地のアンヘル滝(ベネズエラ、10月撮影) ギアナ高地には、山頂がテーブル状に平らな山がたくさんあります。アンヘル滝は、世界最大の979mの落差があることで知られています。 p.110

パナマの選別工場(エクアドル) 多国籍企業がプランテーションでパナマを大規模に栽培し、世界に輸出しています。 p.114

休日と草原でバーベキューを楽しむ人々(アルゼンチン、ブエノスアイレス近郊、2016年6月撮影) アルゼンチンの人々は、肉の消費量が多いことで知られています。 p.111, 114

大規模な大豆畑での収穫作業(ブラジル、マトグロソ州、3月撮影) かつては未開の地だった地域が、大規模な農地に開発されています。 p.114

パナマの船ボートにあるマーク、店で見つけたことがあるよ!

「写真で眺める」ページの写真は、地域を概観するだけでなく、本文ページの資料としても活用できます。

融合から生まれたさまざまな文化  
華やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはも

**第5節 南アメリカ州**  
注目する地誌的課題：熱帯林の破壊

南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**1 南アメリカ州の自然環境**

南アメリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。

南アメリカ州は、日本からみて地球の反対側にあります。大陸の太平洋側には、6000mを超える山々がそびえる**アンデス山脈**が南北に続いています。アンデス山脈は世界最長の山脈で、北のベネズエラから南のチリまでおよそ500kmもあります。大陸の北部には**ギアナ高地**があり、その南は平坦な**アマゾン盆地**が広がります。また東部には、なだらかな**ブラジル高原**が広がっています。

**アマゾン川**は、ナイル川に次ぐ世界で2番目に長い河川で、赤道近くを西から東へ流れています。川幅は広く、流域面積は世界最中です。また、川の流れは緩やかで、河口から1500kmさかのったマナオスでも、標高は約90mにすぎません。そのため、海航行する大きな船でも川をさかのぼることができ、外国からの船数多くやってきます。

**マナオス**に発達した大船(ブラジル、マナオス) 貿易品を運ぶマナオスの位置を地図で確認しよう。

南アメリカには、熱帯から寒帯までのさまざまな気候がみられます。特に広いのが熱帯の地域で、南アメリカの面積の半分以上を占めています。アマゾン川流域には世界最大の**熱帯雨林**が広がって、数多くの動植物が生息しています。その豊かな自然に魅了される観光ツアーは人気があります。

アンデス山脈では、多くの人々が、山あいにある高原や盆地で暮らしています。赤道に近い地域でも、標高が高い地域では過ごしやすい気候になるため、標高2000m以上の高地にラパスやクスコなどの大都市が発達しています。

アルゼンチンの中部やチリ南部には**温帯**の気候がみられ、ラプラタ川の河口付近には**パンパ**とよばれる大草原が広がります。ペルーからチリの北部にかけての太平洋岸や、アルゼンチンの南部には乾燥帯が分布します。例えば、ペルーのリマでは年間降水量が10mm以下しかありません。南アメリカの南端は寒帯で、アルゼンチンとチリにまたがる**山岳地帯**には、氷河が見られる地域もあります。

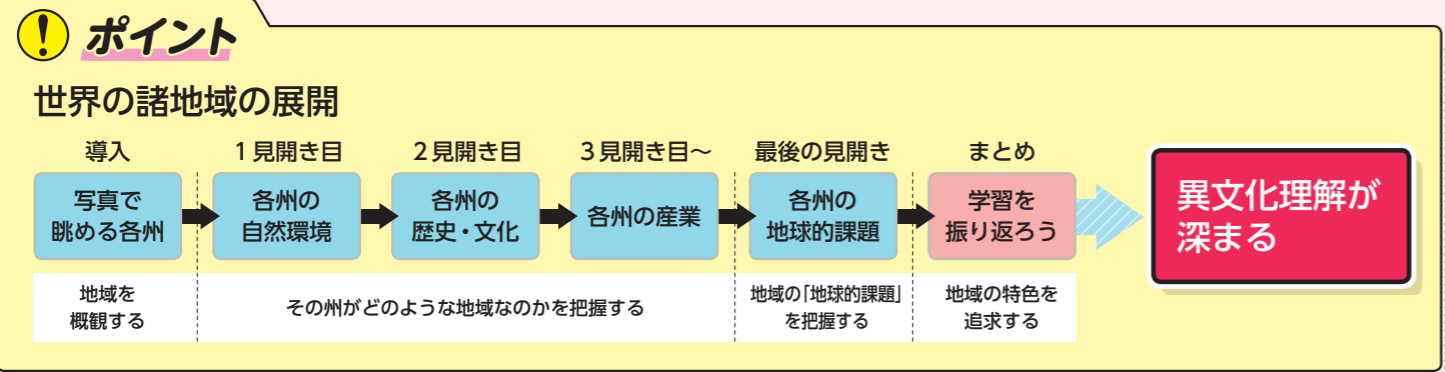
緯度と標高で異なる気候  
南アメリカには、熱帯から寒帯までのさまざまな気候がみられます。特に広いのが熱帯の地域で、南アメリカの面積の半分以上を占めています。アマゾン川流域には世界最大の熱帯雨林が広がって、数多くの動植物が生息しています。その豊かな自然に魅了される観光ツアーは人気があります。

アンデス山脈では、多くの人々が、山あいにある高原や盆地で暮らしています。赤道に近い地域でも、標高が高い地域では過ごしやすい気候になるため、標高2000m以上の高地にラパスやクスコなどの大都市が発達しています。

アルゼンチンの中部やチリ南部には温帯の気候がみられ、ラプラタ川の河口付近にはパンパとよばれる大草原が広がります。ペルーからチリの北部にかけての太平洋岸や、アルゼンチンの南部には乾燥帯が分布します。例えば、ペルーのリマでは年間降水量が10mm以下しかありません。南アメリカの南端は寒帯で、アルゼンチンとチリにまたがる山岳地帯には、氷河が見られる地域もあります。

世界と日本の諸地域の単位では、「自然環境」のページに**地形がわかる地図と、雨温図**を掲載しているため、地域の自然環境の概要がつかめます。

アンデス山脈が気候に及ぼす影響と、熱帯から寒帯まである南アメリカ州の多様な気候の特色を、人々の生活と関連付けながらつかむことができます。



地図中には、見開きページ内で使用されている写真の位置が示されています。写真が撮影された場所を確認できます。

p.110 11の拡大



# 2 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

## 着実に深まる異文化理解 「世界の諸地域」編

2見開き目では、各州の歴史・文化を扱うことで、地域によって、なぜ異なる暮らしが存在するのかを理解することができます。3見開き目以降は、各州の産業や結び付きなど、その地域で特色となる事象を扱っています。

**多様な民族・文化と人々の生活 (各州の歴史・文化)**

▶ 日本とは大きく異なる世界各州の人々の暮らしや文化の特色を、**歴史的な経緯もふまえて**理解できます。

**大規模化する農業と成長する工業 (各州の産業)**

▶ 地域の**特色ある産業**などを扱っています。見開きごとに学習内容がまとまっているため、**地域的特色を捉えやすく、スムーズに学習**できます。

2 世界の諸地域 南アメリカ州

**多様な民族・文化と人々の生活**

南アメリカ州の国々の文化や民族には、どのような特色がみられるのか。

マチュピチュ（ペルー、2017年5月撮影）インカ帝国の遺跡で、山々から見える風景が美しい。この石組みは、何なのか？

マチュピチュ（ペルー、2017年5月撮影）インカ帝国の遺跡で、山々から見える風景が美しい。この石組みは、何なのか？

共生 ブラジルに渡った日本人

現在、ブラジルには約190万人の日本人が暮らしているといわれます。日本からブラジルへの移住は1908年に始まりました。移住者は当初、コーヒー農園に住み込んで働きましたが、労働環境が悪く、逃げ出してしまったりもしていました。その後、自分の土地を所有して、野菜・果物の栽培や鶏の飼育を始め、都市へ移り住んで飲食店などを始めたりしてきました。日本人移民は子どもの教育を大切にしたり、その子孫の日本人は大学への進学率が高く、高度な技術職で働いたり、医者や弁護士になったりするなど、さまざまな分野で活躍しています。1990年以降は、日本で法律が改正されたことにより、ブラジルなど南アメリカの国々から日本に来て働く日本人が多くなっています。

サンパウロの日本人街（ブラジル、2016年撮影）和食の飲食店などが集まっています。

タンゴを踊る人（アルゼンチン、ブエノスアイレス）

アマゾン川流域の先住民と畑でとれたキャッサバ（ブラジル北部）

焼畑農業

森林や草原を焼き払い、その灰を肥料として作物を栽培する農業です。数年たつと土地がやせて、作物が育たなくなるため、別の場所に移転して、これを繰り返します。

10～50年で1サイクル

木や草の成長 作物の栽培 作物の成長 作物の収穫

南アメリカ州の国々で使用されている主要言語を図で確認し、2つ挙げよう。

南アメリカ州で独自の文化や多様な民族がみられる背景を、「植民地」の図を使って説明しよう。

南アメリカの成り立ち

もともと南アメリカには、アンデス山脈のインカ帝国に代表されるように、先住民が作った高度な文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして**植民地**をつくり、ヨーロッパの文化を南アメリカにもあちみちました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、キリスト教のカトリックが信仰されています。

植民地時代には大きな農場や鉱山で、先住民やアフリカから連れてこられた奴隷が厳しい環境で働かされました。先住民と白人の間には子どもが生まれ、メスチソとよばれる混血の住民も増えました。19世紀の終わりにはイタリアやドイツをはじめとするヨーロッパから、20世紀になると日本からも、多くの移民がやって来るようになりました。その結果、現在の南アメリカには、先住民のほか、ヨーロッパやアフリカ、アジアなどから来た、さまざまな人種や民族が共存して暮らしています。

融合から生まれた

単やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもともと、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事ですが、

3 大規模化する農業と成長する工業

南アメリカ州の国々で、産業に変化がみられるようになったのはなぜだろうか。

大規模化する農業

南アメリカ州では、平野や高原を中心に大規模な農業がみられます。スペインやポルトガルの植民地時代に、各地に大農場がひらかれ、ブラジルではさとうきびやコーヒーの栽培が、アルゼンチンのパンパでは小麦の栽培や肉牛の放牧が盛んに行われてきました。また、エクアドルやコロンビアなどの熱帯の海岸地域では、多国籍企業が経営するプランテーションで、輸出用のバナナの栽培が大規模に行われています。

ブラジルは長い間、コーヒー豆の輸出に依存した**モノカルチャー**の国でしたが、近年では、コーヒー豆のほか、大豆やさとうきびの改良が進んだ結果、かつては農業に不向きとされた土地でも大規模に栽培できるようになりました。ブラジルとアルゼンチンの主要な輸出品となった大豆は、アメリカ合衆国などの**アグリビジネス**を行う企業に大量に買い付けられ、大豆油や飼料にするために、主に中国などへ輸出されています。さとうきびは、砂糖だけでなく、ブラジルで普及しているバイオエタノールの原料としても使われます。

工業化

南アメリカは**鉱産資源**に恵まれており、ブラジルの鉄鉱石、チリの銅、ペネズエラやエクアドルの原油などは、輸出品として各国の経済を支えてきました。鉱産資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、後に工業にも利用されるようになりました。

ブラジルやアルゼンチンは、1960年代後半からアメリカ合衆国や日本などの外国企業を受け入れることで、鉄鋼や自動車などの重化学工業を成長させました。特にブラジルでは、航空機の輸出や、大規模な海底油田の探掘も行われるようになり、急速に経済が発展しました。一方、アンデス山脈周辺の国々では工業化はあまり進んでおらず、鉱産資源や農産物の輸出に頼った経済が続いています。

産業の発展に伴う課題

ブラジルでは、産業の発展によって都市化が進み、人々の生活水準も高くなりました。その一方で、内陸部の農村と工業地帯との格差も広がりました。例えば農村では、農業の機械化が進み、農作業の手間が省けるようになった結果、農業者が都市へ移動せざるを得ない人もいました。都市では、働く機会を求めて多くの人が集まり、急激に人口が増えたことにより、丘陵や河川敷などに**スラム**が形成されました。スラムでは、犯罪の発生やごみの増加など、劣悪な居住環境が問題となっているため、経済的な格差をなくすための取り組みが求められています。

山間の斜面に広がるスラム（ブラジル、リオデジャネイロ、2015年撮影）

ブラジルの主要大豆生産地域を、図で確認しよう。

ブラジルの輸出品の種類の増えたり、工業化が進んだことにより、農業について、説明しよう。

カーニバルなどの独特な文化が南アメリカ州に存在するのはなぜか、その歴史的背景を学ぶことにより、地域への理解が深まります。

明を滅ぼして**植民地**をつくり、ヨーロッパの文化を南アメリカにもあちみちました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポルトガル語が話され、キリスト教のカトリックが信仰されています。

の文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもともと、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事ですが、

文章だけでは理解しにくい用語は、イラストや表による図解を交えて解説することで、着実に理解ができるようになっていきます。

森林の伐採と火入れ

木や草の成長

10～50年で1サイクル

作物の栽培

作物の成長

作物の収穫

p.113「解説」中の焼畑農業の模式図

導入では、ブラジルにおけるコーヒーの収穫方法の**変化を写真資料**で提示することで、**地域における産業の発展について考察**することができます。

本資料 p.23

南アメリカ州では、アマゾンの開拓による農業の発展→豊かな資源を背景に発展した工業→発展に伴う課題、と展開しているため、**順を追って産業の発展とそれに伴う課題について考える**ことができます。

# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開 着実に深まる異文化理解 「世界の諸地域」編

最後の見開きでは、各州で顕著に表れている地球的課題とその対策について扱っています。単元の全体を振り返り、地域的特色をまとめる「学習を振り返ろう」を設置しています。

## ブラジルにみる開発と環境保全 (各州で注目する地球的課題)

▶熱帯林の破壊や都市・居住問題、食料問題など、世界各地で発生している**地球的課題**について、各州の**具体例**をもとに**学習**できます。

## 節の学習を振り返ろう

▶**左ページ**では既習の**知識**を確認し、**右ページ**では「見方・考え方」を働かせて、各州がどのような地域だったのかを**思考・判断し、説明**します。

異文化理解が  
深まる



**牧場で働く人の話**

ブラジルでは、北アメリカで肉牛の飼育が盛んで、ブラジル産牛肉の需要が急増したときに、牧場の開発が進んだ。熱帯林を伐採して牧場をつくると、1〜2年の間は牧草がよく育つのだが、しだいに牧草の育ちが悪くなる。その土地を放棄して、また森を切り開いて新しい放牧地をつくるんだ。

ブラジルの熱帯林は、どのようにして開発されているのか？

### 4 ブラジルにみる開発と環境保全

アマゾンをはじめとするブラジルにおける開発は、地域の環境や人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか？

**熱帯林の開発** ブラジルのアマゾン川流域は、長い間手つかずの自然が残る土地でした。しかし19世紀になると、中流域のマナオスを中心にゴムの大農場がつけられました。さらに20世紀後半には、経済を発展させるために大規模な開発が始まりました。例えば、鉱山を開発するために熱帯林が切り開かれ、鉄鉱石を運ぶための鉄道がつけられました。アマゾン盆地を横断する大きな道路が開通すると、道路沿いの熱帯林が広い範囲で切り出され、木材として世界各地へ輸出されました。伐採の跡地は牧場や農地に変えられ、肉牛が飼育されたり、大豆が栽培されたりしています。最近では、増えた電力需要に対応するため、アマゾン川の支流でダム建設が進んでおり、熱帯林が水没するという問題もあります。

**熱帯林の伐採による影響と保全の取り組み** 熱帯の土壌はもともとやせており、ひどい雨によって養分が洗い流されてしまうので、その土地を元に戻すのは大変難しくなります。また、熱帯林の伐採によって、植物の光合成による二酸化炭素の吸収量が少なくなり、**地球温暖化**が進むと考えられています。さらに、貴重な動物種が絶滅したり、先住民の生活が脅かされたりすることも心配されます。そこで、アマゾン川流域の熱帯林を将来にわたり保存するため、さまざまな取り組みが行われています。熱帯林の一部は、国立公園や世界遺産などの保護地域に指定され、開発が規制されるようになりました。また、違法な伐採を人工衛星から監視するしくみも導入され、それは日本の技術も生かされています。これらの取り組みの結果、違法な伐採は減ってきていますが、監視の目をすり抜けて違法な伐採が続いているところもあります。

**バイオ燃料** さとうきびやとうもろこしなど、主に植物を原料としてつくられる燃料です。大気中の二酸化炭素を吸収して光合成する植物を原料とするため、燃やしても計算上は大気中の二酸化炭素が増加せず、環境に優しいエネルギーとして注目されています。

**環境保全をめぐる新たな課題** ブラジルでは、さとうきびを原料とするバイオ燃料で走る自動車が普及しており、二酸化炭素の排出量を抑える取り組みとして注目されています。燃料用のさとうきびの生産は、バイオ燃料を精製する工場が集中するサンパウロ州などの南東部で急増しています。しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起こります。そのため、等高線に沿うように畑を耕して、雨水がゆくり流れるようにするなどの対策を行っています。土壌の流出はなかなか防げられません。

**環境保全をめぐる新たな課題** バイオ燃料で走る自動車が普及しており、二酸化炭素の排出量を抑える取り組みとして注目されています。燃料用のさとうきびの生産は、バイオ燃料を精製する工場が集中するサンパウロ州などの南東部で急増しています。しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起こります。そのため、等高線に沿うように畑を耕して、雨水がゆくり流れるようにするなどの対策を行っています。土壌の流出はなかなか防げられません。

### 5 節の学習を振り返ろう 第5節 南アメリカ州

第5節の問い p.108~117 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**1 学んだことを確かめよう**

- A〜Fにあてはまる国名を答えよう。
- ④〜⑥にあてはまる山脈名、河川名、高地・高原名を答えよう。
- ①〜③にあてはまる語句を、下のキーワードや教科書を振り返りながら答えよう。

**南アメリカの国々** (→p.112) 言語や宗教などに異なる文化。

**多様な植民地** (→p.115) ブラジルの植民地、チリの②、ペルーやエクアドルの銀産地などは重要な輸出品。

**①の大平原** (→p.111, 114) ①の川の高台付近に広がる④とよばれる草原では、小麦の栽培や肉牛の放牧が盛ん。

**②の山脈** (→p.110~111, 113, 115~117) 広大な熱帯林 (→p.110~111, 113, 115~117) 先住民による④農業・開発が進み、伐採の跡地は牧場や農地などに変わっていく。⑤を避けるための鉄道やアマゾン盆地を横断する道路の建設。

**③の高原** (→p.112~117) リオデジャネイロのカーニバルが有名。②高原などではコーヒーの栽培だけでなく、③の生産が増加。工業では、鉄道や自動車、航空機などの重工業が発達。経済成長の一方で、都市では⑦とよばれる居住環境の悪い地域も形成。

**キーワード**

- アンデス山脈
- アマゾン川
- 熱帯林
- パナマ
- 先住民
- 植民地
- 奴隷
- 精糖産業
- プランテーション
- モナルチャーニョ
- アグリビジネス
- 鉱山業
- スラム
- 地球温暖化
- バイオ燃料

**2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう**

**プラスの面**

- コーヒー豆以外の多種類の農産物を輸出できるようになった。
- 伐採された熱帯林は、木材として輸出され、伐採の跡地では、肉牛が飼育されたり、大豆が栽培されたりしている。
- 鉱産資源の輸送のために、鉄道、電力、通信などの施設が整備され、工業でも利用できるようになった。
- さとうきびの生産が急増し、環境に優しいバイオ燃料が普及した。

**マイナスの面**

- 熱帯林の一部が国立公園や世界遺産などの保護地域に指定され、開発が規制された。
- 熱帯林の違法伐採を防ぐため、人工衛星から監視するしくみが導入された。
- 等高線に沿うように畑を耕して、雨による土壌の流出を防ぐ対策が行われている。
- 先住民の保護地区が確保され、先住民の人々の暮らしを守る取り組みが行われている。

**対立**

開発による地域への影響

- 鉱山開発
- 農地開発

**自然環境の保全に向けた取り組み**

- 熱帯林の一部が国立公園や世界遺産などの保護地域に指定され、開発が規制された。
- 熱帯林の違法伐採を防ぐため、人工衛星から監視するしくみが導入された。
- 等高線に沿うように畑を耕して、雨による土壌の流出を防ぐ対策が行われている。
- 先住民の保護地区が確保され、先住民の人々の暮らしを守る取り組みが行われている。

**南アメリカ州における開発の影響をブラジルを中心としてまとめた例**

**ステップ1 この州の特色と課題を整理しよう**

南アメリカ州における、農地や鉱山の開発のマイナスの面について、p.118 キーワードや教科書を振り返りながら、⑧の⑨の空欄を埋めよう。

**ステップ2 「節の問い」への考えを説明しよう**

**作業1** 鉱山の開発と工業化・都市化には、どのような関係があるのか、⑧を参考に説明しよう。

**作業2** 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「熱帯林」と「スラム」の語句を使って説明しよう。

**作業3** グループになり、どのような取り組みを最先行的に行うか、⑧を参考に1.7. 話し合おう。

**私たちの関わり**

アマゾン川流域の熱帯林の開発は、日本に住む私たちと、どのような関わりがあるのだろうか。農産物の輸入や地球温暖化という側面から考えよう。

南アメリカ州では、**環境問題への対策自体が新たな課題を生み出しているという最新の状況を記述することで、地域への理解が深まり、多面的な考察も促進**されます。

**環境保全をめぐる新たな課題** ブラジルでは、さとうきびを原料とする**バイオ燃料**で走る自動車が普及しており、**二酸化炭素の排出量を抑える取り組みとして注目**されています。燃料

サンパウロ州などの南東部で急増しています。しかし、さとうきびの生産を増やすために、草や木で覆われていた土地が開発されて農地になると、雨で土が削られてしまうなどの環境問題が起こります。

「学習を振り返ろう」の最後では、地域的特色をまとめた上で、それらの課題を通して持続可能な社会に向けた構想を、自分たちの生活と関連付けながら話し合えるようにしています。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

## 着実に深まる国土理解

【日本の諸地域】編

第3部第3章「日本の諸地域」では、どの地方も「イラスト地図」→「写真で眺める」という順番で展開するため、これから学習する地域を概観できます。

**【導入】近畿地方(イラスト地図)**

▶ 地方を概観するイラスト地図を掲載しています。小学校からの橋渡しになるよう、手描きによる親しみやすい表現にしています。

**【導入】写真で眺める近畿地方**

▶ イラスト地図のあとに、地域の姿が見える写真を大きく掲載し、よりイメージをとまなべて地域の特色が概観できます。

【例】第3部第3章第3節「近畿地方」(p.203～218)



p.203

原寸大 本資料 p.11

イラスト地図にすることで、大まかな地形の様子がわかりやすく捉えられます。

特徴的な産業や文化などのイラストを掲載することで、地域を概観できるようにしています。



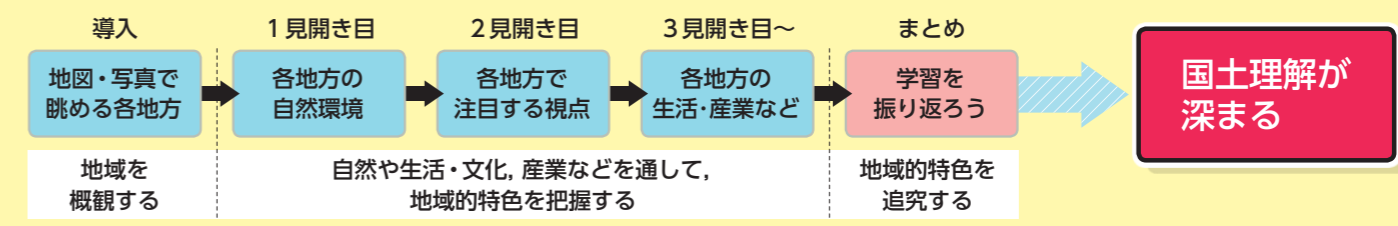
p.204-205

原寸大 本資料 p.7-8

各地方で「注目する視点」(→本資料p.28)に関わる写真を大きく掲載しています。地方の学習の始めに、「注目する視点」を印象付けられます。近畿地方では、「環境保全」を視点として取り上げているため、琵琶湖の写真を掲載しています。

**！ポイント**

日本の諸地域の展開



# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

## 着実に深まる国土理解

【日本の諸地域】編

1見開き目では、国土理解を確かなものにする上で基礎・基本となる地形や気候などの自然環境を扱っています。また、2見開き目では、各地方で注目する視点と関係の深い地理的事象を扱うことで、各地方で追究する主題を明確にしています。

**近畿地方の自然環境(各地方の自然環境)**

▶自然環境を人々の生活と関連付けながら、わかりやすく記述しています。

**琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏(各地方で注目する視点→環境保全)**

▶京阪神で暮らす人々の大切な水がめである琵琶湖の水質保全のために、地域の人々がどのような努力を行ってきたのかを扱いました。

**第3節 近畿地方**

**環境保全に注目して**

近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全は、人口の増加や産業の発展のなかで、どのように取り組まれてきたのだろうか。

**近畿地方の自然環境**

近畿地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。

近畿地方は地形に注目すると、大きく北部・中央部・南部の三つの地域に分けられます。

近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの低地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。

北部が中国山地や丹波高地などのなだらかな山地であるのに対して、南部には紀伊山地の険しい山地が広がります。近畿地方は、北は日本海、南は太平洋、西は瀬戸内海に面しています。播磨灘や大阪湾のほとんどの人工海岸であるのに対して、北部と南部では山地が海まで迫り、若狭湾や志摩半島には、入り組んだ海岸線が特徴のリニア海岸が見られます。

206 小学校・歴史・公民と 環境

**防災**

**震災の経験を語り継ぐ神戸**

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震では、震度7に達する強い揺れで多くの建物が倒壊しました。夜明け前の地震だったために、自宅に眠っていた人が建物や家具の下敷きになるなどして、6000人を超える人が亡くなりました(阪神・淡路大震災)。また、水道や電気、鉄道や道路などの生活基盤が破壊され、都市の生活が長期間まひしました。地震から20年以上たった今、震災後に生まれた若い世代や、新たに地域に移り住んできた人に、地震の恐ろしさを伝えることが、ますます重要になっています。学校や職場などで、震災を経験した人が、みずから体験を話し、それを語り継いでいく取り組みが進められています。

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震では、震度7に達する強い揺れで多くの建物が倒壊しました。夜明け前の地震だったために、自宅に眠っていた人が建物や家具の下敷きになるなどして、6000人を超える人が亡くなりました(阪神・淡路大震災)。また、水道や電気、鉄道や道路などの生活基盤が破壊され、都市の生活が長期間まひしました。地震から20年以上たった今、震災後に生まれた若い世代や、新たに地域に移り住んできた人に、地震の恐ろしさを伝えることが、ますます重要になっています。学校や職場などで、震災を経験した人が、みずから体験を話し、それを語り継いでいく取り組みが進められています。

三つの地域で異なる気候

近畿地方の気候も、北部・中央部・南部で異なります。日本海に近い北部は、冬の雨や雪が多く、山地にはスキー場がくさんあります。一方、太平洋に近い南部は、風の影響で冬でもはみかんや梅などの果樹栽培と観光業が盛んです。紀伊半島の南東側は、南東からの季節風が吹きつける夏に雨が多いため、日本有数の多雨地域として知られます。温山地は、樹木を育てる林業が盛んな地域となっており、暑さが厳しく、甲斐の戦いなどの戦いの場となった盆地は、夏が暑く、冬は冷え込むため、1年の気温差が大きいのが特徴です。中央部は、北と南を山地に挟まれているので、年間を通して降水量が少なく、水不足のときでも田畑に水を渡すように、きました。

近畿地方の主要都市の気候(理科年表 2019, ほか)

近畿地方の北部・中央部・南部に見られる特徴的な地形を、図1で確認しよう。

近畿地方の気候の特色を、北部・中央部・南部に分けて説明しよう。

207

**琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏**

**ニュータウン**

大都市の過密状態を解消するために、大都市の周辺に新しく建設された住宅地や市街地をいいます。イギリスが発祥で、日本では1960年代に大阪府の千里地区に、1970年代に東京都の多摩地区などに進められました。

京阪神大都市圏と琵琶湖・淀川の水

京阪神大都市圏は、京都、大阪、神戸を中心に広がる京阪神大都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。大阪市を中心として鉄道や道路が周辺に並び、沿線に市街地が広がっています。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地にニュータウンがいくつも建設されました。千里・泉北・須磨などのニュータウンは、その代表です。六甲山地が海岸まで迫って平坦な土地が少ない神戸市では、山を開いて住宅地を造り、その土砂を海の埋め立てに利用することによって、市街地を広げる工夫をしました。

京阪神大都市圏では、琵琶湖から流れ出て大阪湾に注ぐ淀川には堀川とよばれる運河が張りめぐらされ、古くから琵琶湖や淀川、瀬戸内海を利用した船の行き来が盛んだったことにより、全国の米や特産物を売買する商業が発展していったからです。

近年では、観光遊覧船に乗って川や運河からの景色を楽しむ観光や、遊覧船をはじめとした水辺の環境の整備など、川や運河が多いことをまちづくりに生かす取り組みもみられます。

琵琶湖の水を守る取り組み

琵琶湖では、周辺の農地で使われた肥料や、急遽に増えた工場の廃水、家庭の生活排水などが流

208 小学校・歴史・公民と 環境

**共生**

**近畿地方と朝鮮半島との結びつき**

近畿地方には、多くの在日韓国・朝鮮人が暮らしています。これらの人々の多くは、日本が朝鮮半島を植民地支配した時期に、朝鮮半島から職を求めて移住したり、労働者として連れてこられたりした人々とその子孫です。大阪市生野区などの在日韓国・朝鮮人が多い地域には、キムチなどの食べ物や民族衣装を売る店が並ぶ商店街があり、生活に密着した場所となっています。また、朝鮮半島の伝統的な踊りや音楽といった文化に熱狂する祭りも開かれています。このように、在日韓国・朝鮮人は独自の伝統文化や生活習慣を誇りとして大切にしています。

琵琶湖の水質改善のためにヨシの苗を琵琶湖の湖畔に植える中学生(滋賀県、長浜市)

琵琶湖・淀川水系の取水区域内にある主要な都市を、図2で確認しよう。

琵琶湖の周辺では、水質を保全するために、どのような取り組みが行われてきたのかを説明しよう。

209

冒頭に「注目する視点」を提示しています。各地方の学習を、何に注目して「見通す」のかがわかります。

各地方の自然環境の特色に応じた災害と、防災への取り組みを扱っています。

本資料 p.44

「京阪神大都市圏」の概要をおさえた上で琵琶湖水系について考える展開としています。巨大な人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全の重要性が近畿地方の大きな課題の一つであることが自然に展開できます。

本文に書かれている人々の生活と琵琶湖の関係を、図版の読み取りを通じて深めることができます。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地にニュータウンがいくつも建設されました。千里・泉北・須磨などのニュータウンは、その代表です。六甲山地から降り取った土砂を利用して造成されたポートアイランドと神戸空港(兵庫県、神戸市、2019年撮影) 琵琶湖の水質改善のためにヨシの苗を琵琶湖の湖畔に植える中学生(滋賀県、長浜市)

京阪神大都市圏では、琵琶湖から流れ出て大阪湾に注ぐ淀川の水が、浄水場で安全な水道水となって流域に暮らす1700万人の人々の生活を支えています。そのため、琵琶湖・淀川水系の環境を保全することが重要です。

自然環境を人々の生活と関連付けて記述しています。

近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの低地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。

# 特色 2 地域の特色を着実に理解できる地誌の展開 着実に深まる国土理解 「日本の諸地域」編

3見開き目以降は、生活や産業など、その地方で特色となる事象を「注目する視点」と関連付けながら扱っています。またその中で、人々が地域の課題をどのように克服し、現在の発展に至ったのかを記述しています。

**阪神工業地帯と環境問題への取り組み(工業+環境保全)**

▶日本の工業地域の中でも古くから発展した阪神工業地帯が、発展の過程で経験した公害などの課題と、その克服の経緯を記述しています。

**古都京都・奈良と歴史的景観の保全(観光業+環境保全)**

▶古い歴史のある京都・奈良では、歴史的な景観を保全することで観光業が発展した経緯を扱い、環境(景観)保全が地域の発展に結び付くことを記述しています。

**1**

**3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み**

1983年 工場 29.6% 住宅 21.7% 商業 15.5% 緑地 0.3% その他 32.9%

2016年 工場 29.2% 住宅 21.9% 商業 15.4% 緑地 0.3% その他 33.0%

1995年 工場 27.8% 住宅 23.3% 商業 15.4% 緑地 0.3% その他 33.2%

2016年 工場 27.9% 住宅 23.3% 商業 15.4% 緑地 0.3% その他 33.1%

**2**

**地理プラス オンリーワンの技術で世界と戦う町工場**

大阪ではねじの生産が盛んで、多くの町工場がねじが作られてきました。アジア諸国で工業化が進むと、ねじの国際競争が激しくなりました。こうしたなか、独自の技術を開発することで、国際競争に立ち向かうとする町工場が出てきました。東大阪市の従業員数約90名の町工場では、神社の鳥居に使われているくさびの原理を応用して、「絶対に曲まないねじ」を開発しました。世界で唯一の技術といえるこのねじは、東京スカイツリーや明石海峡大橋などの建造物、新幹線の車両など、安全性が重視とされるさまざまな場面で採用され、イギリスなど海外でも広く使われています。

**3**

**中小企業と大企業**

製造業では、資本金が3億円以下、または従業員数が300人以下の企業を中小企業といっています。中小企業の基準を超える企業を大企業とします。

**4**

**地方別の重要文化財数の割合(2019年)**

文化庁資料

**5**

**京都府を訪れる観光客数の変化(京都府資料)**

2017年の外国人観光客数は、2011年と比べて約2倍に増えている。

**4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全**

京都と奈良では、歴史的景観を保全していくために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

**歴史が息づく古都の町並み**

京都の古くからの市街地では、四条通や五条通などの東西に延びる道路と、烏丸通や室町通などの南北に延びる道路が、碁盤の目のように整然と交差しています。これは、平安時代に造られた平安京の道路網が、現在の京都の町にも引き継がれているからです。京都では、一本一本の通りに名前が付けられており、住所を示すのにも、写真のように、通りの名前が使われます。ある通りから見て北にある場所は「上る」、南にある場所は「下る」と表示されます。

京都と奈良は、8世紀以降、平安京や平城京の都が置かれ、長い間、日本の政治や文化の中心であったので、「古都」とよばれています。世界遺産に登録されている清水寺や東大寺をはじめとして、寺院や神社が数多くあり、重要文化財に指定された建物や絵画、彫刻などもたくさん残っています。また、西陣織や清水焼、奈良漬などの伝統工芸品の生産も盛んです。さらに、京都に夏の訪れを告げる「祇園祭」など、さまざまな伝統文化も息づいています。日本は、伝統文化が色濃く残る京都と奈良には、多くの観光客が訪れており、近年では、日本文化に関心をもつ外国人観光客が増えています。

**6**

**古都の景観の保全に向けて**

第二次世界大戦中に空襲の被害をあまり受けていなかった京都や奈良には、伝統的な町並みが多く残されています。しかし、狭い土地を効率的に利用するために高層の建物が建設されたり、歴史的な建物の近くに現代的なビルが建てられたりして、古都の歴史的景観が失われていっています。このため、京都や奈良では、住民の生活の利便性を守りながら、古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいくための、さまざまな取り組みが行われています。例えば京都でも、伝統的な町並みがよく残っている地区などで、建物の高さやデザインを整えたり、電線を地中に埋めたりすることが行われています。また奈良でも、町家とよばれる伝統的な住居を保存するために、伝統的な外観は保ったまま、建物の内部だけを店舗や宿泊施設などに改装して利用する取り組みが行われています。これらの取り組みには、歴史ある町並みの魅力を残したいという、古都に暮らす人々の願いが込められています。

公害だけでなく、国内の産業構造の変化や国際競争など、阪神工業地帯が直面したさまざまな課題と、それに対応する中で変化を続けた経緯を扱っています。さらに現状に加え、将来に向けた展望についてもふれています。

**！ポイント**

**1** 興味・関心を喚起する写真資料  
同じ場所でも撮影された時期が違ったり、同じ時期であっても場所が違ったりする写真を掲載しました。複数の写真の比較から、さまざまな疑問が、自然にわくようにしています。

**比較ができる写真ページ一覧**

ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.51 4	雨季と乾季のトンレサップ湖の様子	p.181 4	八幡製鉄所の移り変わり
p.54 1	シェンチェン(深圳)の変化	p.186 3	洞海湾の変化
p.114 1	大型機械を使ったコーヒーの実の収穫	p.210 1	大阪湾岸の工業地帯の移り変わり
p.114 2	手作業でのコーヒーの実の収穫	p.213 6	2005年と2018年の二年坂の様子
p.146 1	「さっぽろ雪まつり」の会場でカーリングをする子どもたち	p.230 1	収穫前の水田と小千谷縮の雪さらし
p.146 2	花見を楽しむ人々	p.268 3	高台に造成された新しい住宅地(三王団地)の移り変わり
p.179 6	筑紫平野での小麦の収穫と田植えされた水田		

# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

## 着実に深まる国土理解 「日本の諸地域」編

### 環境に配慮した林業と漁業(林業, 漁業 + 環境保全)

▶ 近畿地方の林業と漁業を通して、後継者不足や水産資源の枯渇などの地域の課題について記述するとともに、課題への対応についても記述しています。

### 節の学習を振り返ろう

▶ 左ページでは既習の知識を確認し、右ページでは「地理的な見方・考え方」を働かせて、各地方がどのような地域だったのかを思考・判断し、表現します。

国土理解が  
深まる

林業の仕事をする人たちは、どのような場所を働いているのかな？

切り倒された木は、約100年以上はなんでも使われているよ！

「吉野すぎ」の伐採 (奈良県、川上村、2017年7月撮影)

#### 紀伊半島の林業と漁業の現状

紀伊半島には、高野山や熊野本宮大社のように、古くから人々の信仰の対象となってきた場所がある。そこへ通じる熊野古道と共に、世界遺産に登録されて大切にされている。でも、世界遺産に登録された後は、観光客の増加によって熊野古道の山道が荒れたり、山道を整備したことで元の様子が壊れてしまった。地元の住民や企業によって保全活動が行われている。熊野古道は生活道路としても利用されているから、住民の生活を守ることと観光客との両立が課題になっている。

熊野古道の保全活動 (和歌山県、田辺市) 山道に土を補充しています。

#### 環境に配慮した林業と漁業

近畿地方で行われている林業・漁業では、環境を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。

##### 林業が盛んな紀伊山地

雨が多く暖かい気候が木の生育に適している紀伊山地には、豊かな森林が広がっています。急斜面の多い険しい山地であるにも関わらず、森林の多くは人が育てた人工林で、すぎやひのきなどが植えられています。これらの人工林では、樹木の成長に合わせて伐採と植林が繰り返され、枝打ちや間伐などの手入れを行って樹木を育てる林業が、古くから行われてきました。特に奈良県の「吉野すぎ」や三重県の「尾鷲ひのき」は、色が美しく香りもよいことから、建築材や家具などに加工され、高品質な木材のブランドとして知られています。

##### 林業が抱える課題とその対策

紀伊山地の森林には、出荷できる樹齢のすぎやひのきが豊富にありますが、伐採量はほとんど増えていません。これは、安い外国産木材の輸入が増えたため、木材価格が低迷しているからです。山間部では、高齢化によって林業の働き手が減り、森林管理の技術を受け継ぐ後継者が不足したため、管理が行き届かず荒れてしまう森林も増えています。こうしたなか、国や自治体は林業の知識や技能が習得できるような支援する「緑の雇用」制度を始め、この制度を利用して林業の仕事に就き、山間部に移住する人も出てくるようになりました。また奈良県の十津川村のように、学校などの公共施設で地元産の木材の使用を進めて、林業の活性化を目指す地域も出てきています。

#### 水産資源の減少と保全

近畿地方の沿岸部では、古くから漁業が盛んに行われてきました。しかし、魚介類のとりすぎや過度の養殖による水質汚染が原因で、日本海沿岸ではズワイガニ、志摩半島の英虞湾では真珠をつくる貝の減少を招くなど、各地で水産資源の減少が問題となりました。ズワイガニの漁獲量が減少した日本海側の地域では、とるカニの大きさや量、漁の時期などを制限し、水産資源の回復に努めています。

環境林を保全するために 森林には、木材の生産だけでなく、土砂災害を防止したり、農業・生活用水を蓄えたりする働きがあります。また、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防ぐ役割もあります。このような環境に対する効果を重視した「環境林」を保全する取り組みが広がっています。例えば、企業が所有者から森林を借りて、植林などの作業に社員が参加したり、地元の林業従事者との交流を深めたりする「企業の森づくり活動」が、和歌山県や三重県などで行われています。また、森林を保全するための県民税を設け、地域全体で森林を保全する取り組みも進められています。

水産資源を保全する取り組み 近畿地方の沿岸部では、古くから漁業が盛んに行われてきました。しかし、魚介類のとりすぎや過度の養殖による水質汚染が原因で、日本海沿岸ではズワイガニ、志摩半島の英虞湾では真珠をつくる貝の減少を招くなど、各地で水産資源の減少が問題となりました。ズワイガニの漁獲量が減少した日本海側の地域では、とるカニの大きさや量、漁の時期などを制限し、水産資源の回復に努めています。

### 第3節 近畿地方

#### 1 学んだことを確かめよう >> 知識

- A～Gにあてはまる府・県名を答えよう。
- ①～④にあてはまる地名、湖名、河川名、山地名を答えよう。
- ①～⑥にあてはまる語句を、下のキーワードと教科書を振り返りながら答えよう。

日本海沿岸 (p.215) ・ズワイガニなど漁業が盛ん

京阪神大都市圏 (p.208～209) ・東京大都市圏に次ぐ人口集中地域 ・「水の都」や「天下の台所」とよばれ、古くから①が発展していた大阪 ・市街地を広げる工夫をした神戸

畿内工業地帯 (p.210～211) ・全盛期や大企業など②が誕生 ・福地効果が生む新しい工場や施設 ・大阪府の東部③の工場が多い

京都・奈良 (p.212～213) ・歴史の景観や文化財を生かした観光が盛ん

紀伊山地の森林 (p.214～215) ・古くから林業が行われてきた ・土砂災害を防ぐ働き④を防ぐ役割がある「環境林」の保全 ・熊野古道の保全活動

英虞湾 (p.215) ・真珠の⑤が盛ん

湖・淀川水系 (p.206, 208～209) ・京阪神大都市圏の人々の生活用水 ・⑥を改善するための取り組み ・川や運河を生かしたまちづくり

#### キーワード

緑の雇用	ニュータウン
湖川	畿内工業地帯
リアス海岸	公害
季節風	中小企業
ため池	伝統的工芸品
熊野古道	環境林
京阪神大都市圏	地球温暖化

### 2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう >> 思考力、判断力、表現力

#### 水産資源の保全 ～日本海沿岸～

取り組み 水揚げするカニの大きさや量、漁の時期を制限

#### 生活環境の保全 ～京阪神大都市圏～

取り組み 工場の排煙、地下水のくみ上げすぎ、人口が増加したこと、工場と住宅地が隣接

#### 歴史的景観の保全 ～京都・奈良～

取り組み 歴史的景観が失われる、伝統的な町並みが残る、多くの観光客が訪れる、住民の生活の利便性を保つ

#### きれいな水の保全 ～琵琶湖・淀川水系～

取り組み 人口と工場の増加に伴う、生活排水や工業排水、農地で使われた肥料

#### 森林の保全 ～紀伊山地～

取り組み 「緑の雇用」制度で林業に就く人を支援、「環境林」の保全

#### 近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全の取り組みをまとめた例

ステップ1 この地方の特色と課題を整理しよう

近畿地方において自然環境や歴史的景観を保全するために行われてきた取り組みについて、p.216のキーワードと教科書を振り返りながら、①～⑥を埋めよう。

ステップ2 「節の問い」への考えを説明しよう

作業1 人口の増加や産業の発展によって、近畿地方で生じた課題について、②を参考に説明しよう。

作業2 近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全は、人口の増加や産業の発展のなかで、どのように取り組まれてきたのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「移動」と「規制」の語句を使って説明しよう。

ステップ3 「節の問い」に関連が深い見方・考え方

私たちが住む町では、どのような伝統的な町並みや歴史的な建物などが保全されているのか、調べよう。

小学校や他科目との関連を提示しています。既習事項の確認やカリキュラム・マネジメントなどに役立ちます。

紀伊半島の林業を、現状→課題→課題への対策の順に記述しました。地域の産業における、現状と課題への対策について記述しています。地域的特色の理解に役立つだけでなく、持続可能な産業の在り方について考える際の参考にもなります。

学習した知識を白地図上でまとめることで、確認できます。

「写真で眺める近畿地方」や、本文の太字を振り返る課題を通して、近畿地方で学習した知識を確認できます。

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

# 地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開 世界と日本の諸地域学習の「序説」

文章だけではわかりにくい、地域的特色と地域の課題の関係について、写真やイラストを用いてわかりやすく説明しています。

## 第2章 世界の諸地域

**序説 学ぶにあたって**

第2部第1章では、異なる自然環境に住む人々の生活の工夫や近年の生活の変化、世界のさまざまな宗教と生活との関わりなどに着目して学習してきました。

第2章では、p.3で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学びます。各州には、地域を追究する主題が設定されており、この主題に沿って、地域の特徴をとらえていきます(図6)。

**章のねらい** 世界の各州における地域の特徴や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

各州の特色をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域の特徴を学習します(図5)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらの課題の中には、地球規模で共通している**地球的課題**もあります。そのため、これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちの住む町をよりよくするためのヒントにもなります。

### 地域の特徴



① 広大な牧場を移動する牛(ブラジル)

合計	インド	オーストラリア	アメリカ合衆国
8937	14.1%	12.0%	52.7%

② 牛肉の輸出(2016年)(FAOSTAT)

牛肉の輸出

### 地球的課題



③ 伐採された熱帯林(ブラジル、パラ州)

④ アマゾンの森林伐採面積の累計 (INPE資料)

熱帯林の破壊

例えば、ブラジルは世界でも有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり、ブラジルの産業における特色の一つになっています(→p.114)。しかしながら、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.116)。

このように、地域の特徴は地球的課題にも結び付いており、**持続可能な社会**(巻頭1~2, p.286)を実現するためには、これらの地球的課題の解決に取り組んでいくことが大切です。

導入

1 見開き目

2 見開き目以降

各州の産業と地球的課題

学習を振り返ろう

写真で眺める各州 → 各州の自然環境 → 各州の歴史・文化 → 各州の産業と地球的課題 → 学習を振り返ろう

⑤ 第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結び付きの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

⑥ 各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題 地域を追究する主題は、各州を貫く「節の問い」にもなっています。

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題について一覧で示し、各州でどのような地球的課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。

世界と日本の諸地域学習の冒頭には「序説」を設置し、地域的特色を追究する際の視点(主題)と地球的課題・地域の課題の関係を端的に示しています。

地域にみられる課題には、**現在進行している事例**だけでなく、**課題を克服した事例**も含まれています。これらの事例を参考にすることで、より具体的に地域の持続可能な発展について考えることができます。

## 第3章 日本の諸地域

**序説 学ぶにあたって**

第3部第2章では、日本全体の特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。

第3章では、p.166で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学びます。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定されており(図2)、この視点に注目しながら、地域の特徴をとらえていきます(図1)。

**章のねらい** 日本の各地方における地域の特徴や、その特色と地域にみられる課題との関係をとらえよう。

各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、最終的には私たちの住む町で何をすればよいのかを考えましょう。



自然環境 (台風が多い, 温暖な気候) → 地域の特徴 → 生活・文化 (風に強い伝統的な家) → 産業 (文化にふれられる観光地, さとうきびの栽培)

地域のさまざまな事象には関連があります。例えば南西諸島では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域の特徴をつくり出しています。

導入

1 見開き目

2 見開き目

3 見開き目~

学習を振り返ろう

地図・写真で眺める各地方 → 各地方の自然環境 → 各地方で注目する視点 → 各地方の生活・産業など → 学習を振り返ろう

⑦ 第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題	地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策	中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化	関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全	東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
			北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

⑧ 各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題

日本の各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域にみられる課題について一覧で示し、各地方でどのような課題を扱っているかが一目でわかるようになっています。